

伸ばそう！子どもの学力

三島市教育委員会 令和6年10月発行

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習・生活状況を把握し、今後の教育活動に役立てていくために、実施されています。令和6年度の三島市の調査結果を分析し、三島の子どもたちのよさや今後伸ばしていきたいところをリーフレットにまとめました。

子どもたちの学力を伸ばしていくためには、学校と家庭が連携して子どもたちの学びを支えることが大切です。学校では、調査結果を活用し授業改善に取り組んでいきますので、各家庭でも、このリーフレットを参考にしていきたいと思えます。

調査の概要

【調査日】令和6年4月18日(木)

【調査対象】小学校6年生、中学校3年生

【調査内容】○ 教科に関する調査(国語、算数・数学)

○ 生活習慣や学習習慣に関する質問調査

※調査問題については、国立教育政策研究所ウェブページ(<http://www.nier.go.jp/>)から確認できます。

✿ 三島の子どもたちのこんなところがすてき！ ✿

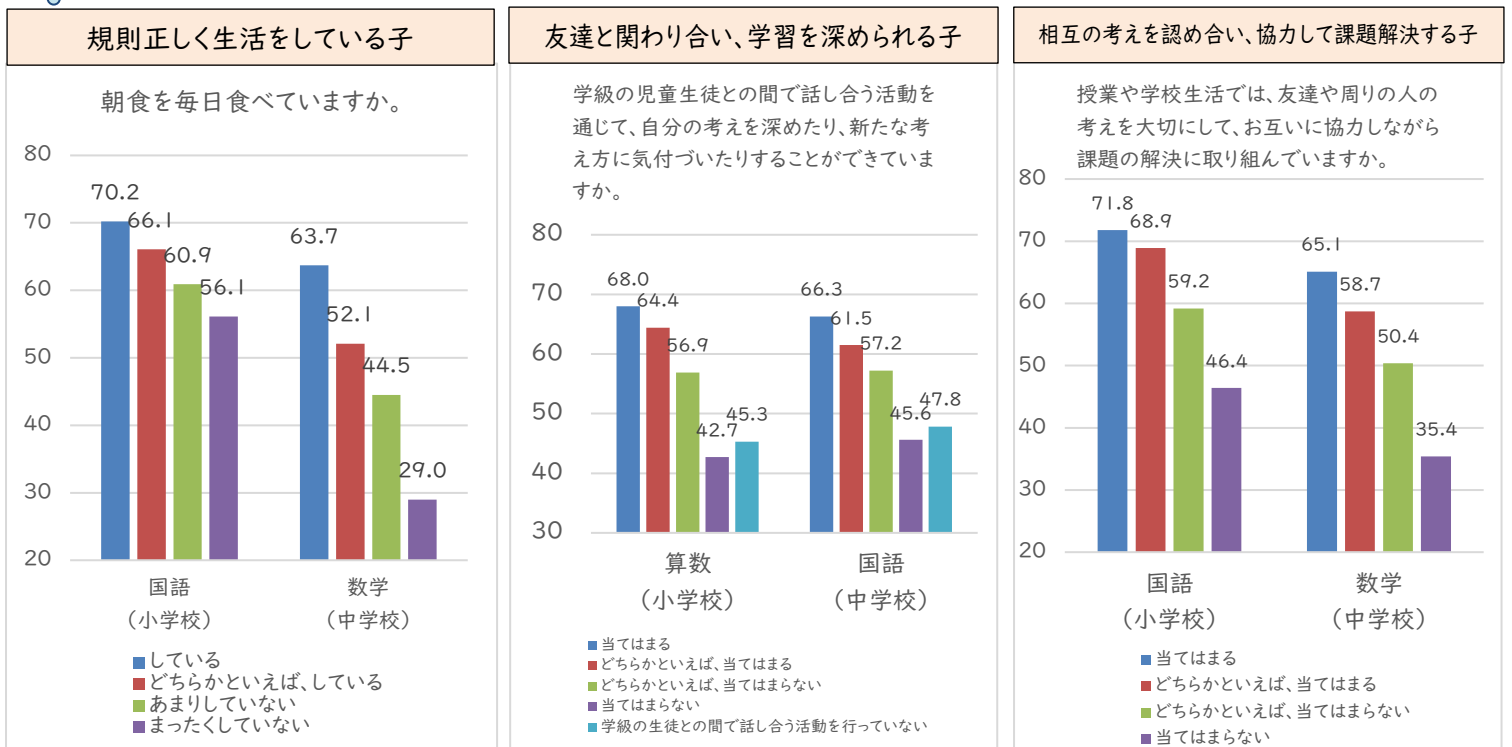
- 規則正しい生活ができる子が多い。
- ICT機器を頻繁に使用して調べ学習や意見交換ができる。
- いじめはどんな理由があってもいけないと考えている子が多い。
- 困っている人を進んで助けたり、人の役に立つ人間になりたいと考えたりしている。
- 友達関係に満足している子が多い。

✿ 三島の子どもたちの伸ばしたいところ ✿

- 自分で学び方を考えたり、自分の考えを相手に伝えるように表現の仕方を工夫したりすること。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っている。

生活・学習習慣と学力の関係は？

次のような子どもたちは、
教科の平均正答率が高いことが分かりました。



「自分自身」「周囲の人」との対話を大切にしたいですね。

こんなところができています

- 【小学校】○ 表現するためにメモを効果的に活用すること
- 【中学校】○ 読解に必要な情報を見つけ出すこと

三島の子どもたちの伸ばしたいところ 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

（正答例）



「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいます。
このように、「たてわり遊び」のよさは、学年をこえた交流ができるところだと思います。

ポイント

事実と感想、意見を区別して書くことが大切です！

（誤答例）



たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えていました。
このように、みんなたてわり遊びを楽しんでいました。

ポイント

事実と感想、意見を区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまっています。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えん（おんこた）の仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうぎ（アキょうぎ）の作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをなげるようにしています。

〈条件〉

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれしかった

ポイント

事実と感想、意見を明確に区別して書くためには、

文末表現に注意することが大切です！

- 事実…「～と書かれています」「～が起こっています」「～がいます（あります）」「～と答えています」
- 感想、意見…「～と思います」「～と考えます」「～すべきです」「～に賛成・反対です」「～したいです」

小学校2 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。
二 高山さんは、次の【高山さんの文章】の [] に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 [] に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

学校では

- 自分が思ったことや考えたことを、目的や意図に応じ表現する力を育てます。
- 他教科等においても、グラフや図表など資料から読み取って考えたことを書き表す活動を行います。



家庭では

- 日常生活の中で「あなたは、どう思う？」「なぜそう思う？」など、子どもと思いや考えを交流しましょう。
- 会話の中で「それってどういうこと？」と問い直して、様々な言葉で表現する機会を作りましょう。

算数・数学

紙面の都合上、調査問題を省略して示しています。

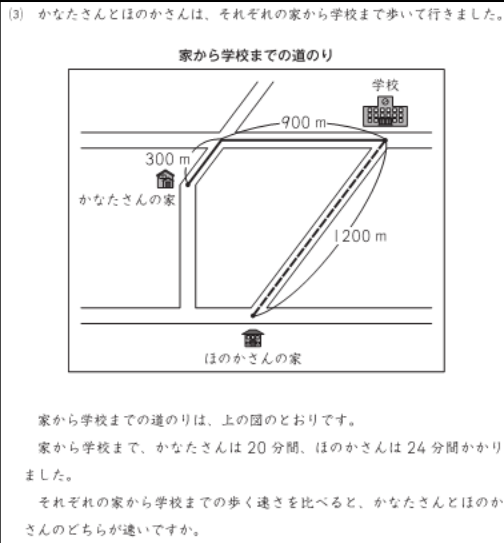
こんなところができています

- 【小学校】 ○基本的な図形の意味や性質についての理解 ○数量関係を式に表す ○円グラフの特徴についての理解
- 【中学校】 ○正の数と負の数の計算をすること ○ある事象についての確率を求めること

三島の子どもたちの伸ばしたいところ 問題解決に至るまでの過程を説明する力

【小学校】④(3)

→道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。



(正答例)

かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは同じです。このとき、時間が短いほど、速さが速いので、かなたさんの方が速いです。

“ここ”だよ。この幅(赤丸)だよ。

グラフや座標に注目して説明できないかな?“ここ”ってx軸上だよ。

そうだね。

具体的な数値や用語があると、説得力があるし、相手によく伝わるね。

(グラフを選択したときの正答例)

「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、yの値が0のときの、xの値の差を求める。

ポイント

答えが出るだけでなく、そこまでの過程を、算数・数学の用語を用いて説明できることも大切です。

学校では

○「どうしてそうなったの」をキーワードに、算数・数学の用語を使って説明し合う時間を大切にします。

家庭では

○「なんで?」や「どうしてそうなったの?」と答えがでた理由を問い返してみましょう。



速さを求めなくても速い方がわかるよ。

え!?速さを比べるには、計算で速さを求めなくてはいけないはずだよ。



道のりがそろっているときは、時間の違いが速さの違いになるから、時間が短い、かなたさんの方が速いことがわかるよね。

もちろん計算で求めることができることも大切です!

(かなたさん) $1200 \div 20 = 60$ 分速60m

(ほのかさん) $1200 \div 24 = 50$ 分速50m



速さ=道のり÷時間で求められます。

道のりが同じ(そろっている)時、速さの違いは時間に表れますね。

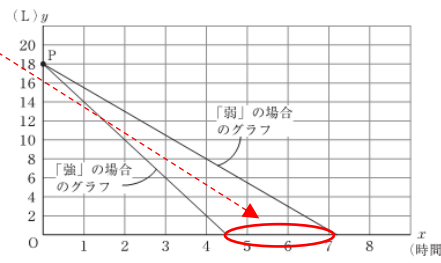
(別解) かなたさんの歩く速さは、 $1200 \div 20 = 60$ で、分速60mです。ほのかさんは、 $1200 \div 24 = 50$ で、分速50mです。だから、かなたさんの方が速いです。

【中学校】⑧(2)

→事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題です。

ストーブの使用時間と灯油の残量

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$
「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$



ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを考えます。ストーブの使用時間の違いが何時間になるかを式かグラフから選択し、求める方法を説明しなさい。